

2012年度 早稲田大学大学院法務研究科  
法学既修者試験 論述試験  
刑 法  
( 問 題 )

---

問題1 (60点)

甲は、夜間、知人A(24歳)の自宅近くの路上でAを待ち伏せして殺害することを計画し、自動車で同所へ赴き、Aが現れるや、周囲に人影のないことを確認した上で、携帯していたけん銃をAに向けて発射した。しかし、弾が外れ、偶然自転車で前方路上を横切ってきたB(30歳)の脚部に命中し、Bに全治2ヶ月の傷害を負わせたが、銃声に驚いたAは直ちにその場を走り去ってしまったので、A殺害は遂げなかった。甲は、発覚を防ぐために、Bを人気のない山中に運んで直ちに車内で射殺することを決意し、負傷して倒れたBの体を抱き上げて、無理やり自動車の後部トランクに閉じ込め、急いで自動車で犯行現場から逃走した。そして甲は、Bの殺害後の死体遺棄の手伝いを友人にさせるために同人を電話で呼び出すことにし、歩道上に設置された電話ボックス脇の道路上にいったん自動車を停車させた。その道路は直線で見通しも良く、甲の自動車はハザードランプを点けて停車していたにもかかわらず、乙運転の自動車が、指定最高速度時速40kmのところ時速60kmの速度で脇見運転をしながら走行してきて、甲の自動車後部に突っ込み、その結果、後部トランクに閉じ込められたBは即死した。

甲、乙の罪責を論じなさい(特別法違反の点は除く)。

問題2 (30点)

詐欺罪におけるいわゆる処分行為について、その存否が問題となる具体例をいくつか挙げながら論じなさい。

〔以下余白〕